

大阪城公園 樹木 1200 本伐採

写真は朝日新聞 7 月 3 日夕刊。「伐採された樹木が積まれた大阪城公園内の劇場建設地=2018 年 3 月、谷口さん提供」と。大阪の今を考えるうえで紹介しておきたい。

大阪城公園で、公園運営を民間企業が担うようになった 2015 年度以降、約 1200 本の樹木が伐採されていたことがわかった。無料の遊具エリアがあるのに、すぐそばに樹木を伐採して民間運営の有料の遊び場が設けられた場所もあり、「商業化が行き過ぎている」と市民から不満の声も出ている。



6 月の晴れた日、公園は家族連れや外国人観光客でにぎわっていた。子ども向けに 18 年にオープンした有料の遊び場がある一方、無料の遊具では、当時から一部の滑り台が故障で閉鎖したままだ。大阪府四条畷市から孫(5)を連れて遊びに来た男性(74)は「観光客ばかりで、住民がのんびり過ごす場所じゃなくなったね」と話す。

大阪城公園は大阪市が運営していたが、民間参入を進める指定管理者制度によって 15 年度から 20 年間、電通や読売テレビなどで構成する大阪城パークマネジメント共同事業体 (PMO) が運営することになった。公園の魅力向上も管理者選定の条件で、新たな商業施設設置も認められる。このため、公園東側を中心にコンビニや飲食施設、劇場などが次々と建てられ、集客力を高めている。

一方、園内では商業施設建設のため樹木伐採が進む。大阪市には市民から「木がどんどん伐採されている」「商売ありきの公園になっている」などの不満が寄せられている。甲南大の谷口るり子教授 (教育工学) が市に情報公開請求したところ、15~17 年度に商業施設の建設に伴い、ケヤキやクスなど計 1174 本が伐採されていた。公園の維持管理を理由とする植樹はゼロだった。谷口さんは「公園はテーマパークではない。憩いの場であり、市民と話し合う機会を設けるべきだ」と指摘する。

また、「大阪を知り・考える市民の会」世話人の中野雅司さんは「自然の中で癒されるのが公園の役割の一つなのに、鳥の憩いの場でもある樹木が減ってしまった」と話す。

大阪市の担当者は「施設では壁面や屋上の緑化にも努めている。全員の満足は難しいかもしれないが、多様なサービスを提供していきたい」と話す。



写真下は今年 2 月 25 日にレポートしたブックレット。これに大阪城公園のことが住民目線で綴られている。

(2019 年 7 月 7 日)